

EXSENCE DC

I-DC+ EXSENCE TUNE 機能説明・ご注意

■I-DC+ EXSENCE TUNE

ラインのテンション変化を察知し、自動的にブレーキ制御を掛けることでバックラッシュを防止するDCシステム。永年の研究で培ってきたこのDCシステムを、シーバス用に進化させました。シーバスゲームで多用される細PEライン。「軽く・しなやかな」その特性から、従来のベイトリールでのキャストは難しいとされてきました。しかし、DCブレーキ制御システムをPEライン用に一からシビアに調整しなおし、バックラッシュを抑制することに成功しました。6つのPEモード、1つのフロロモードから構成されるI-DC+ EXSENCE TUNE。全国の幅広いシーバスシーンを網羅し、PEベイトキャストという新たなスタイルを提供させていただきます。

スタンダードPEモード： ルアーの種類によりブレーキ調整が可能な4段階のPEモード。I-DC+ EXSENCE TUNEのベースとなるモードです。

Fモード： ポートシーバス等で使用されるフロロライン用のモード。FモードはスタンダードPEモードに比べ強いブレーキになっています。スタンダードPEモードでバックラッシュしてしまうような強風下でのPE使用も可能です。

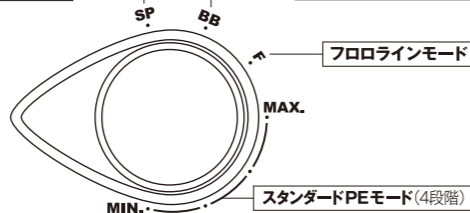
BB PEモード： ビッグベイトモード。初動後も、少し強めのブレーキを一定に掛け続け、ビッグベイトが回転してしまうのを抑制することで、飛距離を伸ばします。

SP PEモード： ルアーの着水が分かりにくく、サミングのタイミングが計りにくい夜間。このような状況下でも安心してキャストできるのが、SPモードです。アシストブレーキを搭載することで、キャストのごく後半でのブレーキ制御が強めに働き、バックラッシュを抑制します。また、SP PEモードでは、DC音が他のモードと異なります。キャスト前半～中盤はDC音は無く、「後半でのアシストブレーキ」が起動した時点でDC音が発生します。サミングの目安として活用ください。

ブレーキモードは7種類

スペシャルPEモード

ビッグベイトPEモード



■より快適にデジタルコントロールブレーキを使用して頂くための 注意点

●メカニカルブレーキノブの設定方法

DCブレーキを搭載したリールでは、メカニカルブレーキの設定方法が従来のブレーキシステムとは異なります。

通常はスプールが軸方向にガタつかない程度にゆるめてお使いください。メカニカルブレーキを必要以上に締め付けると、DCシステムが本来の性能を発揮できません。ただし、想定以上の強風条件などではメカニカルブレーキを締め付ける必要があります。

●糸巻き量、スプール回転数

ブレーキセッティングはフルライン(スプールの95%糸巻き量)の状態を前提に作られています。これより糸巻き量が少ない場合は、スプールの回転数が上がりやすくなるため、ブレーキが強効すぎる場合があります。糸巻き時には、スプールのテーパ面のエッジ(下記 ●糸巻き量のご注意 図参照)に合わせた糸巻き量でご使用ください。

●糸の太さ、スプール回転数

糸の太さによって、キャスト時のスプール回転数の下がり方が異なります。同じ糸巻き状態で同じ速度でルアーが飛んでいる場合には糸が太いほうがスプール径が早く痩せ、スプール回転数は多くなります。そのため、太い糸のほうが理論的にはブレーキが強効しやすい傾向があります。

●ベアリングの回転状態、汚れ

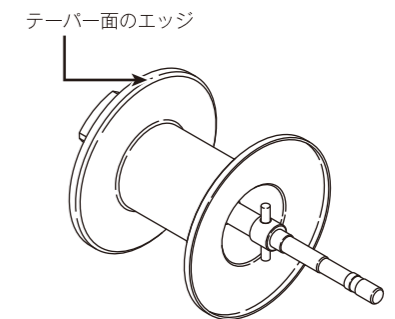
エクセレンスDCのブレーキプログラムは汚れのないスムーズな回転状態のベアリングで設定されています。汚れ、オイル切れ等の回転状態の悪いベアリングを使用した場合はブレーキが効きすぎるように感じる場合がありますのでご注意ください。(多少のベアリング汚れ等であれば、ブレーキを若干緩めることで対処できます。)

●風向、風力

風向と風力によってルアーの飛びは大きく影響を受けます。特に真正面からの向かい風は、ルアー、ラインに大きな影響を与えます。

●糸巻き量のご注意

ブレーキ設定はスプールのテーパ面のエッジ(右図矢印)までの糸巻き量で行っています。それよりも多く巻くとブレーキの効きは弱くなり、少なく巻くと強くなります。



※高速リトリブ中や低速キャストの場合にDCブレーキの作動音がある場合がありますが、故障ではありません。
※デジタルコントロールブレーキは、バックラッシュを起こしにくくしますが、完全にバックラッシュしない、という訳ではありません。